

37. 子どもの保育現場における感染症及び食中毒の 予防と意識向上に関する研究

森 絵美、愛水 幸枝、村上 育実、川村 喜久子、柴田 香織、深井 文佳、
岡田 卓郎（東大阪市保健所 環境衛生検査センター）
佐藤 拓代（旧所属：東大阪市保健所長、現所属：大阪府富田林保健所長）
服部 泰典、鷺ノ森 奈芳美、岡田 幸恵（東大阪市保健所 地域健康企画課）
松山 美紀（東大阪市保健所 健康づくり課）
北口 敬子、北尾 光裕（東大阪市保健所 食品衛生課）
清水 裕介（前所属：東大阪市保健所環境薬務課、現所属：東大阪市保健所食品衛生課）
伊藤 匡浩（東大阪市保健所 環境薬務課）

1. はじめに

近年、全国的にノロウイルスの集団感染が多く発生している。東大阪市でも過去5年間で49件の発生があり、うち13件が保育所での事例である。子どもは大人と違い習慣としての衛生対策が必要であり、保育所などの集団生活では感染リスクは高く、そのリスクは周囲の大人の意識によって大きく左右される。そのため保育士など子どもと身近に接する大人にも感染症や食中毒に対する正しい知識を持ってもらうと同時に、子どもたち自身にも自分の身を守る力をつけてもらうことが必要である。

このため、子どもたちに正しい手の洗い方や手洗いの必要性を学んでもらう手洗い教室の実践と共に、保育者に対して保育現場における衛生環境に関するアンケート調査を実施し、その結果を元に「保育所等における感染症食中毒予防のためのガイドブック」を作成したので報告する。

2. 研究目的

手洗い教室を実施し、子どもたちに微生物などによる健康被害から自分の身を守る力をつけてもらうと共に、保育者に対してもガイドブックの作成や講習会を通して衛生に対する知識を深めてもらうことにより、感染症や食中毒の発生と拡大防止を図ることを目的とした。

3. 研究方法

保育所において手洗い教室を実施した。衛生紙芝居2本（ありがとうセッケンマン、へっちゃらさーくんのおやつえんそく）を読み、手を洗わなければいけない理由や手を洗わ

なければどうということが起こるかを説明した。次にパネルを用いて正しい手の洗い方を練習し（写真1）手洗いチェッカーを使用して今までの手の洗い方と、習ったばかりの正しい手の洗い方でどれくらい差があるか確認した（写真2）。手洗いの際には筆者らが横について声かけしながら、洗い残しやすいところなどを重点的に指導した。また、手洗い教室参加者には手洗いパンフレットを配布した（図1）。

同時に園の管理者や保育士を対象に、保育現場における衛生環境の実態を把握するためのアンケート調査を実施した。アンケート内容は排泄や食事、おもちゃの管理など1日の生活の流れに沿った項目と、施設や設備、職員の健康管理など園の体制・施設状況の項目についてである。

これらの成果を基に、保育現場向けの「保育所等における感染症食中毒予防のためのガイドブック」を作成した。

4. 研究結果

手洗い教室

10月23日現在、公立保育所3園、私立認可保育園1園で実施した。手洗いチェッカーを使用した実習には4歳児92名、5歳児84名、保育士や施設管理者など26名が参加した。当初は4・5歳児を対象とを考えていたが、実際に園に話をすると紙芝居とパネルを用いた手洗い指導に関して「2・3歳児も参加させてほしい」という要望や、「園児はまだ理解できないが、担任保育士が話を聞きたいので0・1歳児も一緒に参加させてほしい」という要望があり、希望するクラスはすべて参加してもらった。一部参加した園児、保育士等も含むと参加者は約380名である。

紙芝居については、初めて聞く話ということもあり、多くの園児が真剣に聞き入っている様子であった。話の中で手洗いの方法を説明する場面では、特にこちらから声かけをしていないにも関わらず、自然と手洗いの真似をしている園児も多く見受けられた。手洗いチェッカーについては実際に洗い残した部分が光り、正しい方法で洗うと光らなくなるので、子どもたちにも簡単に理解できるようであった。

手洗い教室終了後、園児に何が一番わかりやすかったか質問したところ、ほぼ全員が手洗いチェッカーと答えた。保育士や施設管理者に感想を聞くと、毎日顔を合わせている保育士などが「手を洗いなさい」と言ってもほとんど耳に入らないが、初めて見る知らない人が大きなパネルを使って説明したり、新しい紙芝居を読んでもくれるということで、いつもとは違い真剣に聞いていたという意見を全ての園で得ることができた。また、手洗いチェッカーは正しく洗えている時と洗えていない時の差が目に見えて実感できるので、とても有効だと感じたという意見も多くあがった。

手洗いパンフレットについて、配布後に手洗い場の園児が見える位置に貼ったという園があった。どのように洗えば良いかが一目でわかるので手洗い教室のことを思い出し、友達とそれを見ながら今までよりもしっかり手を洗っているとのことであった。

アンケート調査

アンケート項目は「登園」「オムツ交換・排泄」「遊び」「食事」「午睡」「手洗い」「その他の管理」「衛生管理体制」「健康管理体制」「施設・備品管理体制」について計 66 項目、4 園において回答を得た。以下、その中の特筆すべき点を挙げる。

汚れたオムツの保管場所が保育室内になっている園が全体の 25%で見られた。ビニール袋に入れていてもやはり室外で保管したほうが良いと伝えたが、適した場所が無いということで引き続き保育室内で保管せざるを得なかった。また、オムツ交換場所の消毒について、全ての園で交換ごとの消毒は実施されておらず、交換場所も保育室内でだいたいの場所を決めているだけであり、またその場所は園児がハイハイして行くことが可能な場所にあった。オムツ交換時の毎回の消毒は現実的には難しいとの意見もあり、オムツ交換専用マットの使用を提案し、園でも導入を検討してもらうことになった。

おもちゃの消毒について消毒の頻度を決めている園は無く、汚れてきたら消毒することであった。また砂場の消毒を実施している園は全体の 25%であった。あまり実施されていないようであったので、「保育所等における感染症食中毒予防のためのガイドブック」に消毒方法などを詳しく載せることとした。

手洗いについて、全ての園で保育士・園児ともに液体石けんを使用していた。手拭きについては個人専用タオルのみを使用している園、ペーパータオルと併用している園、感染症発生時のみペーパータオルを使用している園などそれぞれ状況は違った。

食事について、全ての園で給食が実施されていたが、75%の園では主食を持参していた。また月に数回、お弁当の日を設定している園もあった。これらの園について、家庭から持参したお弁当の保管場所について質問したところ、保育室のそれぞれの通園バックの中が 75%、夏期のみクーラーのかかった事務所内が 25%であった。冷蔵庫を確保できない場合には、代替案として発泡スチロールに保冷材を入れて保管するなどの方法を提案した。

プールについて、プール実施時には全ての園で毎日水の入れ替えが実施されており、残留塩素の測定もクラス毎に実施されていた。

園の衛生管理体制として、衛生管理担当職員が決まっている園は 75%で、その職種は全て保健師であった。衛生管理に関する園内研修は 75%の園で年度始めに感染症の対応（嘔吐物の処理についてなど）について実施されていたが、残りの園では特に決まった研修は実施せず、感染症流行時に職員会議内で連絡するぐらいとのことであった。衛生管理に関する園外研修はすべての園で受講しており、保健所が実施する食品衛生講習会や市の福祉部局が実施する感染症講習会が多かった。

保育所等における感染症食中毒予防のためのガイドブック作成

アンケート調査実施と同時に、保健師・食品衛生監視員・環境衛生監視員・健康危機管理担当職員・保育士などで構成する「保育所等における感染症食中毒予防のためのガイドブック作成検討委員会」を立ち上げた。A4 カラー全 40 ページで 11 章に構成されている。

今後、東大阪市内の全保育関係施設に配布予定である。

5. 考察

すでに、ほぼ全ての園で担任保育士や保健師による手洗い指導を始めとした衛生指導が実施されていた。しかし、毎日顔を合わせている保育士に同じことを言われても園児の耳には入りにくく、保育現場としてもその対策に苦慮していたようである。園児に対しては今回実施した手洗い教室のように、外部の人間が訪問して指導することに大きな効果があり、年に1回など忘れてしまった頃に再訪するとさらに効果があると考えられる。また、手洗い場にパンフレットを貼った園の園児たちがしっかり手洗いを行っていたという例から、保育士のみで指導するにあたって声をかけるという聴覚的アプローチだけでなく、視覚的アプローチも非常に有効である。

手洗いパンフレットに関しては、「家に持って帰り、子どもが保護者に話すことで家庭での意識向上につながる」と好評であった。保育現場としては保護者に対し、園だけでなく家庭での取り組みが大事だと伝えることが必要と認識している。しかし、他のことに比べて衛生面に関しては後回しにされがちである。このことに関してはアンケート結果からも同様のことがわかった。例えばオムツ交換後には毎回その場所を消毒することが望ましい。保育現場もそれは認識しているものの実際には出来ていない。正しい方法を指導すると共に、毎回の消毒が無理ならオムツ交換専用マットの導入を薦めるなど、現場の実状に沿った代替案を提案していくことも必要であると感じた。

今後は、作成した「保育所等における感染症食中毒予防のためのガイドブック」を利用した施設管理者や保育士向けの講習会を実施したい。また、子どもをとりまく大人の衛生に対する理解を深める一環として、地域のイベントなどにおいても手洗いチェッカーを用いた手洗い指導を実施予定である。併せて子ども向けの手洗い教室を継続することで、地域の衛生環境の向上に努めていきたい。



写真1



写真 2



図 1

経費使途明細

保健衛生紙芝居	10,280 円
手洗いチェッカー（6 台）	68,628 円
消耗品費（石鹼、チェッカー液、ペーパータオル、電池 など）	46,051 円
手洗いパネル	29,600 円
文具（写真用紙、ファイルなど）	3,135 円
印刷製本費（手洗いパンフレット）	63,000 円
印刷製本費（感染症食中毒予防のためのガイドブック）	260,000 円
運搬費（切手代など）	15,260 円
交通費	4,280 円
合計	500,234 円